

深刻化する「ペットロス症候群」の 予防・回復の一助となるオリジナルフィギュア作製

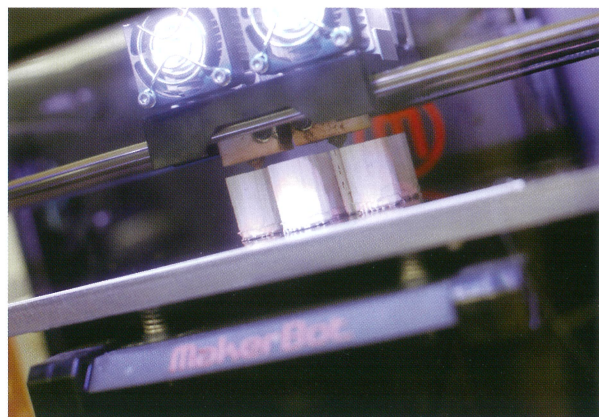
3Dプリンターによる世界にひとつだけの立体モデル



道路や橋梁、ダムなど土木構造物の設計、コンサルティングなど、半世紀以上にわたって文字通り北海道の土台を支える活動を行っている和光技研。この度、新規事業として3Dプリンタを使用した「オーダーメイドペットフィギュア」の作製を始めた。…お堅い土木の会社がペットフィギュアの作製？誰もが大きな違和感を感じているのではないだろうか。しかし、この一見何の関連も無いように思える事業、実はそう遠いものではなかったようだ。同事業担当の坂井常務に詳しい話を伺った。

開発 動機

「弊社では3次元設計、いわゆるCAD(キャド)と3Dプリンターによる立体モデルの出力も手がけていましたから、そのノウハウを活用したんです」。フィギュアの件は理解できたが、どうしてペットだったのか。坂井常務が続ける。「実は『ペットロス症候群』の予防・回復のお手伝いが出来ないかと思ひまして」。「ペットロス」とは、ペットと共に過ごし、培われた愛情がその「死」や行方不明などによって引き起こされる鬱状態で、深い悲しみと直面する事で陥る。しかも、増加傾向にあると言う。よりリアルなフィギュアを製作することで、飼い主たちの心を癒す。これが新規事業の始まりだった。



実施 内容

製品である3Dプリンター立体モデル=フィギュアは石膏(せっこう)仕上げ。表面は滑らかな陶器調のツヤ加工を施しており、水気にも強い。ヒゲの加工も行っており、ペットの特徴を余すところなく再現できるのもうれしい。また、抜け落ちた本物のヒゲの使用も可能だと言う。

製造工程はペットの動画・写真などを資料として借受け、3Dモデリングソフトを用いてデータを入力するだけ。その後、紙やパソコン画面といった2次元段階で飼い主とのやり取りを行い、修正箇所を指摘した後に造形に入るの、何かと安心だ。修正は複数回に及ぶこともあるが、納得の得られる完成品のためにはその手間は惜しまない。

事業 成果

市場が形成されていない新たなビジネスであるため、初めはマーケティング活動に力を入れた。しかし、ある程度はターゲットを絞ることはできたものの、現時点においてプロモーション不足は否めないと言う。それでも、依頼主からは「フィギュアを見て気持ちが落ち着いた」など、感謝の言葉が数多く寄せられており、本来の事業目的はひとまず達成したようだ。

さらに、培ったノウハウを活用し、ミニチュアペットフィギュアのシリーズとして「パートナーズ」ブランドを新しく展開。オーダーメイドとは別に、犬や猫の既製品販売をウェブサイト上で行っている。ラインナップは約50種類、これにより市場は全国へと大きく広がった。

今後の 展望

「民間中小企業で、プロユースの3Dプリンターを所有している企業が少ないため、ペット以外での立体造形物の製造に関する問い合わせが増えて来ましたね」と笑顔の坂井常務。本業にも関連する地形や構造物をはじめ、新築住居購入の方やご結婚されるおふたりのためにフィギュアを作製、プレゼントにする方も多いとか。

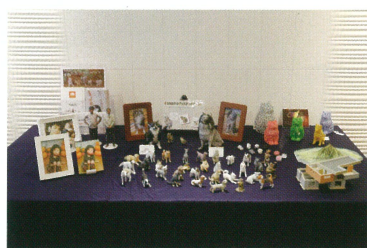
マーケティングリサーチの結果では、これ以上の高価格ではペットフィギュアのニーズが見込めないという具体的な金額も算出されている。今後は思い切った低価格設定でも採算が合うようプログラマー、デザイナーなどスタッフの増員・育成と、より幅広いジャンルの造形物受注を獲得することが重要な課題だ。

革新ポイント!

人々の身近な思い出をカタチに残すよう、最先端の3Dデジタル技術を活用。



本物より本物らしく見せるのがスタッフの腕、造形物をよりリアルに再現する3Dプリンター。



あらゆる形のものをそのままスケールダウン、ペット以外にも幅広い立体造形物の製造が可能。



次代の手がかり

常務取締役 坂井敦行

弊社では独自の3D技術を駆使し、特にペットとの思い出を強く心に刻んで頂くためにオーダーメイドのペットフィギュアをご提供しております。製品はデザインから出力まで、全工程を一貫して社内スタッフが実施。最終段階の出力過程で積層が粗くては全てが台無しになりますので、品質保持には最良と考えました。ペットフィギュアの作製という新たな事業を得て、今後は従来の土木構造物のコンサルティングから、ささやかながら「心のコンサルティング」のお手伝いができればと考えております。



和光技研株式会社

代表者名 代表取締役社長 細川康司

設立 昭和39年

資本金 4,000万円

従業員数 78名

事業内容 建設コンサルタント業(河川、砂防及び海岸・海洋部門、道路部門、土質及び基礎部門、建設環境部門)、測量業、補償コンサルタント業、地質調査業、3D出力事業

住 所 札幌市西区琴似3条7丁目5-22

電 話 011-611-0206 FAX 011-612-2092

U R L <http://www.wako-giken.co.jp/>

